



佐渡空港を利用しよう

そして滑走路2千メートルへ



【佐渡空港】

●着陸帯	長さ 1,010m / 幅 60m
●滑走路	長さ 890m / 幅 25m

平成20年10月の運休から約3年。この間、市では、佐渡―新潟線の運航再開を県に要望してきました。

県のご尽力により、新日本航空株式会社が入参意向を示し、平成23年2月に、県・市・新日本航空株式会社で覚書を締結。そして平成23年7月29日、佐渡―新潟線就航にいたしました。

複数の交通アクセスが整備

観光振興のほか島民の安全安心を確保

佐渡―新潟線の就航で、海路と空路の複数の交通アクセスが整備されたことは、観光振興のほか、島民の安全安心の確保や、今後の佐渡空港滑走路2千メートル化を推進する観

点からも大きな意義があります。

現在まで佐渡と本土との交通手段は、船舶のみに依存していました。もし、船に何らかの支障が生じれば、観光やビジネスでの往来に影響があるばかりではなく、生鮮食品や燃料などをはじめとする日常生活に必要な物資の流通でも大きな影響を受け、経済活動に深刻な混乱を引き起こすことになります。

また、東日本大震災において空港が防災拠点・緊急輸送拠点になるなど、大きな災害があった場合の空港の重要性が改めて認識されたところです。

離島と本土との交通手段を海路だけに頼るのではなく、緊急時の島民避難や災害救援など、危機管理上からも航空路が存在することは離島にとってきわめて重要なのです。

つなげよう 滑走路2千メートルへ

海路や空路などの公共交通は、利用されてこそ、その価値が高まります。

佐渡―新潟線の再開で多くの方に佐渡空港を利用していただくことにより、空路の必要性をご理解いただき、滑走路2千メートル化につなげていきたいと考えます。

滑走路を拡張し、大都市圏とのアクセスを整備すれば、首都圏や関西方面からも観光客を呼び込め、観光振興、交流人口の拡大が図れます。

また、安定した物資輸送手段が確保されるので、企業誘致のほか、新鮮な



佐渡新航空路開設促進協議会 離島佐渡と本土との交通体系を確立し、島民の安全安心と地域の活性化を図るために、佐渡空港の拡張・新航空路の開設を目指す

農産物・水産物を迅速に出荷できるようになり、島内産業の活性化につながります。

島民の安全安心の確保や、観光をはじめとする地域産業の活性化を図る上で、空港2千メートル化は必須の事業です。県、佐渡新航空路開設促進協議会と連携しながら、空路の利用促進を図ってまいります。

